横浜国立大学との連携成果発表会 結果報告書

１ 日　時　　令和２年１月 25 日（土）13：00～17：00

２ 場　所　　箱根町役場 分庁舎 第６・７会議室

３ 出席者　　計 33 名

・町民等５名
〔一般３名、議会議員１名、町職員１名〕

・横浜国立大学 12 名
〔池島祥文准教授、池島ゼミナール学生５名、ほか学生６名〕

・町職員 13 名

・事務局３名
〔企画課：伊藤課長、早野副課長、辻満〕

４　会の概要

〔プログラム〕
(1) 箱根町におけるお金の流出構造
【発表：横浜国立大学経済学部 池島ゼミナール】
(2) みんなのまちづくりゲーム体験会
ア ゲームの説明と実施
イ 結果発表と意見交換

プログラム(1) 箱根町におけるお金の流出構造

【学生の発表】

●池島ゼミ学生

箱根町におけるお金の流出構造について調査しましたので、その結果を発表します。

まず、報告の構成から説明しますが、始めに箱根町の現状とその課題の特定について、次に地域経済循環を用いた分析手法について、次に今年度の調査結果について、最後にまとめとさせていただきます。

（スライド３）
始めに、箱根町の観光産業は、皆さんご存じのとおり箱根神社や温泉など豊富な観光資源により、とても潤っています。

（スライド４）
観光客数は、毎年概ね 2000 万人で推移しています。

（スライド５）
しかしながら、社会保障費の増大、財政調整基金の減少、町税収入の減少等を原因として、箱根町の財政状況は悪化してきました。

（スライド６）
そこで、私達は地域経済循環の観点から、潤沢な観光資源により入ってきたお金が流出する構造を捉えようとしています。
箱根町の現状を示すため、漏れバケツを例に考えます。地域経済をバケツに例えると、漏れ穴が多いバケツでは十分な水は溜まりませんので、漏れ穴が多い地域経済には十分なお金が溜まらないことになります。地域経済を活性化するためには、漏れ穴を減らす、地域外への支出を減らすことが重要です。

（スライド７）
LM3（地域内乗数３）という指標を用いて分析しました。これは、3 回分の取引における地域内への支出を積み上げて指標化したものです。これによって地域内の循環率を測定することができます。
計算方法の例としては、100 万円が地域内のホテルに流入し、ホテルが原材料等の調達のため八百屋等に支出、更には農家等に支出することで、地域内で支出された金額の合計 175 万円が地域内で循環することになります。
そこで、LM3 は 175 万円を最初に流入してきた 100 万円で割った 1.75 という数値になります。この場合の LM3 の最大値は３、最小値は１となり、数値がどの程度高いかで地域内循環がどれくらいされているかを見ることができます。

（スライド８）
調査の目的として、箱根町の地域経済循環の問題点を主産業である宿泊業を中心に、支出面から明らかにすることとしています。
循環率が高まれば地域内での経済活動が活発になり、町内にお金が溜まり、町全体が豊かになると考えられます。

（スライド 10）

調査内容に入る前に、昨年度の取組みについて簡単に説明します。

昨年度は宿泊事業者９か所にヒアリングし、LM3 の分析を行いました。LM3 の値は 1.37 となり、総経費に占めるうち、特に原材料費と営業経費の流出が多いことが分かりました。今年度は対象数を増やすことで、より正確なデータを得ることに力を入れました。

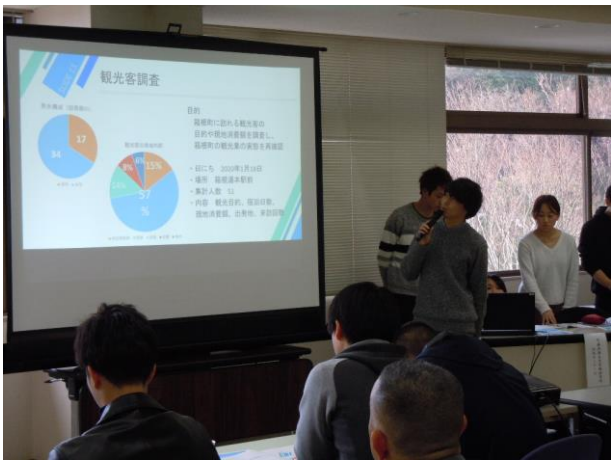
（スライド 12）

今年度の取組みの一環として観光客を対象に調査を行い、宿泊事業所向けのアンケート、それを踏まえた LM3 分析、詳しいデータを得るために事業所への追加ヒアリングを行いました。

（スライド 13）

まず、観光客調査について説明します。

目的は、箱根町に訪れる観光客の目的や現地消費額を調査し、箱根町の観光業の実態を観光客の視点から再確認することです。場所は箱根湯本駅前で行い、対象を観光客 51 人、調査内容を観光目的、宿泊日数、現地消費額、来訪回数等としました。



（スライド 14）

箱根への来訪回数は、初めての方が約 40%、複数回訪れているリピーターが約 60%となっています。出発地別来訪回数は、神奈川県内からの来訪者の約 90%が５回以上と非常に高く、関東地方は約半数が複数回となりました。

（スライド 15）

宿泊日数は、１泊２日が最も多い結果となりました。来訪回数とこの結果を踏まえ、気軽に来やすい観光地として地位が確立しているのではないかと思います。

（スライド 16）

観光客の宿泊費は、１人当たり１万～２万円が最も多かったです。また、出発地別で観光客の消費金額の割合を見ると、神奈川県を含む関東圏からの観光客による消費が約 85%と大部分を占めていることが分かります。この調査から、箱根町の観光業は特に関東からの来訪者による収入で支えられていると思われます。

（スライド 17）

次に、宿泊事業所への実態調査についてです。まず、調査の第１段階として、宿泊事業者の基本情報や取引内容を回答していただく調査シートを作成し、2019 年９月に 107 の事

業所を対象にアンケートを送付しました。回答は約４分の１の 26 事業所からいただくことができ、調査シートを基に調査を進めました。

（スライド 18）
回答いただいた事業所の基本情報の構成を図示したものがこちらになります。１番右が従業員数になりますが、町外からの勤務者が町内の２倍と、今回の調査で顕著な結果となりました。

（スライド 19）
７項目から取引理由を選択してもらう質問を設け、その結果を示しています。原材料費には、「以前から取引している」、「高品質である」、「低価格である」が 26 分の 15～16 と、半分以上の割合となりました。営業経費は、「以前から取引がしている」が 26 分の 13 と半数が回答しました。

（スライド 20）
取引理由について、従業者数が１～10 人を小規模、11～50 人を中規模、51 人以上を大規模と３つの規模別に事業所を分類し、傾向を分析しました。

（スライド 21）
いずれの規模においても、「以前から取引している」の項目は、原材料費・営業経費ともに回答数が多かったです。また、「高品質である」は小規模より中規模・大規模の方が多いことが分かります。規模が大きくなるほど取引数が増えるため、回答内容への影響も大きくなると考えられますが、それでも高品質またはコストパフォーマンスを重視する傾向があると言えます。
営業経費においては、規模が大きくなるほど割合が大きくなり、事業規模が大きいほど広い市場から取引できる傾向になることから安価に取引を行うことができること、取引における価格交渉力が強いことが推察されます。

（スライド 22）
本社の所在地について分類しました。
特段の傾向は見られませんでしたが、営業経費は、本社が町外にある方が高品質を重視、町内の方が取引相手との関係性を重視していることが調査から分かりました。

（スライド 23）
また、事業所が単独か複数グループで展開しているかも分類しました。
原材料費については、複数グループの事業所は取引財の特異性・特殊性を重視しており、これは、箱根町以外にも事業所があることから箱根町の事業所としての差別化を図るため、

特異性を意識しているのではないかと考えられます。

営業経費については、単独事業所の方が特異性や提供形態を重視している割合が高い傾向にあります。これは、複数展開している大規模事業所は広告に支出を割いているのに対し、単独展開の比較的小規模な事業所は、広告費より修繕費等の即時性を必要とする支出に割く傾向があり、温泉の修理などは業務の特殊性もあるため、迅速さや柔軟さを重視されていることが理由であると考えられます。

（スライド 24）

今回の調査結果から算出した箱根町の LM3 は、1.24 となりました。スライドには、比較対象として周辺地域との結びつきが強い中山間地域の４町の LM3 を例として挙げました。これらの地域の LM3 は、環境省からの委託事業で島根県中山間地域研究センター等が算出しました。

島根県邑南町（おおなんちょう）は 1.76 など、箱根町の値は低いことがわかるかと思います。注意点として、ここで挙げた４町の LM3 は町内の全産業を対象としていますが、箱根町は観光産業に絞った値となっています。

（スライド 25）

事業所ごとの LM3 を算出しました。

17 事業所を挙げていますが、それぞれの事業所の R1（ラウンド１）、R2、R3 と示しており、R2 で値が大きく下がっています。これは、R2 でお金の流出が多いことを示しています。

（スライド 26）

原材料費についての LM3 です。

こちらは R1 の値が低くなっていますが、R2 以降は事業所ごとにばらつきがあり、R2 で既に町内支出がゼロになる事業所もあります。

（スライド 27）

営業経費についての LM3 です。

原材料費のグラフと比較して R1 の値が高く、R2 の値は極端に低いものとなっています。ここから、R2 の時点で域外への支出が多いことが分かります。

（スライド 28）

人件費についての LM3 です。

各事業所でバラつきがあるものの、原材料費と営業経費と比較して R2 の値が高くなっていることが分かります。ここから、比較的人件費は町内に残るお金が多いのではないかと思いました。

（スライド 29）

LM3 の考察ですが、①営業経費の町内支出は一律に低いものの、原材料費は事業所ごとにばらつきがある。②最も支出割合の高い営業経費が最も域内に支出する割合が低い。つまり、営業経費を域内に支出する割合を高めれば LM3 の値はもっと高まると思います。③人件費はほかの経費に比べ町内に留まりやすいことが分かりました。

（スライド 30）

箱根町の LM3 は 1.24 ですが、これは域内の経済循環率が 20%ということです。これを２倍の 40%にした場合、LM3 が 1.56 となり、仮に１億円投入したとすると、LM3 が 1.24 の場合は経済効果が 1.24 億円ですが、1.56 の場合は経済効果が 1.56 億円となり、3200 万円もの差が生まれることになります。

（スライド 31）

このように LM3 分析を行うことで、宿泊事業所においては経費が域外に流れやすいことが分かりましたが、どの地域にどの程度流出しているかは分かりませんでした。そのため、回答いただいた事業者のうち記名のあった 16 箇所に追加ヒアリングを実施し、具体的に現状を把握することとしました。

（スライド 32）

追加ヒアリングは、2019 年から 2020 年にかけて計５回実施しました。内容はスライドに示した従業員数等となりますが、この調査を行うことで、箱根町からどの地域にお金が流出しているか明らかにしようと考えました。

（スライド 33）

原材料の取引先ですが、円グラフの地域別割合を見ると、箱根町内が約 20%、町外が約 80%と、その多くが町外に流れていることが分かりました。

次に、区分１が湯本地区、区分２が芦ノ湖周辺、区分３が強羅周辺とし、地域別の事業所の取引割合を調査しました。その結果、区分１と３は小田原市と静岡県内の割合が高いのに対し、区分２は箱根町内の割合が高いことが分かりました。

（スライド 34）

原材料の取引先事業所の件数をグーグルアースで示していますが、遠方では愛媛県や大

阪府が多く、特に注目いただきたいのが、静岡県内を取引先とする割合が東京都より多いことです。

（スライド 35）
原材料費の金額ベースで調査したものになります。件数ベースと比較し、ヒアリングできた事業所が少なかったため母数が少ないこと、金額ベースのため大規模事業者の結果に引っ張られやすいことが注意点ですが、横浜や東京の取引が多いことが分かりました。

（スライド 36）
円グラフは営業経費の分析になりますが、原材料費と同様、町外との取引が約８割を占めていることが分かりました。棒グラフも同様に地域別に取引割合を分析しましたが、区分１と３は東京の割合が非常に多く占めるのに対し、区分２は町内の割合が多かったです。

（スライド 37）
営業経費の取引件数で見ると、原材料費は静岡県の割合が多かったのに対し、営業経費は東京方面に集中している傾向が見られます。

（スライド 38）
金額ベースで見ても、東京方面の割合が非常に高いものとなっており、多くのお金が流れていることが分かりました。

（スライド 39）
ヒアリング結果のまとめとして、原材料費・営業経費ともに区分２（芦ノ湖周辺）は町内との取引が多いこと、営業経費は非常に多くのお金が東京方面に流れる傾向にあることが分かりました。また、原材料は小田原市を除く神奈川県内より静岡県内との取引が多かったのですが、理由として、輸送距離が近くコスト節減のため静岡県内との取引を多く行っているのではないかと考えました。

（スライド 40）
ここまでデータを中心に見てきましたが、事業者の意見を聞く機会がありましたので、一部を紹介します。
非常に多くの意見であったのが、箱根町内で循環を完結させるのではなく、小田原市、三島市、御殿場市など周辺地域を含めた循環を考えることが必要ではないかということ。また、箱根の観光業が強い理由として、東京からの立地が良いことが強みであるということです。

（スライド 41）

全体の考察として、小田原市へのアクセスが比較的良い湯本や強羅周辺は小田原市で調達する場合が多いため、町内での調達率は下がることが分かりました。

LM3 の分析からは、箱根町の 1.24 は他地域と比較して低いことから、特に営業経費は域外流出が目立ちました。また、原材料費は町内調達に力を入れているところもあり、数値に差が見られました。

アンケートからは、規模に関係なく全ての事業所で取引先との関係性を重視する傾向にあることが分かりました。

（スライド 42）

アンケートとヒアリングを組み合わせることで、お金の流出先を細かく捕捉することができ、原材料費は小田原市や静岡県東部、営業経費は東京方面への流出が多いことが分かりました。また、ヒアリング結果の地域別分析から、芦ノ湖周辺の事業所は町内との取引割合が高いなど、地域別に流出構造が異なる傾向がありました。芦ノ湖周辺の高循環率の特性を他地域へも反映させることができれば町全体の経済循環が促進されて、お金が町に留まる仕組みができると考えました。

最後に、ヒアリングさせていただいた事業者の方々、アンケートに協力いただいた方々、役場の方々に感謝を申しあげます。ありがとうございました。

【学生の発表に関する意見交換】

●池島准教授

ありがとうございました。それでは、意見交換とします。

●参加者

私は南足柄市在住ですが、経済関係に関心がありまして、その辺りを大学生の方が発表されるということで参加しました。今回の調査は大学と役場が連携して行い、その結果を箱根町はどのように生かそうと考えているか聞かせていただきたいと思います。

町内の経済循環により町の財政状況を改善するという内容であったと思いますが、経済は町だけでなく周辺地域を含めた活動の中で活性化する要素もあり、経済活性化という観点では、町の財政だけを考えるのは疑問があります。今回の調査は財政に着目したものであり、最終的には経済の活性化を考えていると思いますが、周辺との連携など、どのように考えていますか。

南足柄市は箱根町と隣接しており、箱根町は世界的な観光地であることからも南足柄市としては連携した取組みを打ち出していくことが必要と考えています。東京 2020 オリンピック・パラリンピックを目前に控えていることからも、単独の取組みではなく広い意味で地域経済を活性化する手法を考えた方が良いと思いますので、その参考とさせていただければと思います。

●池島准教授

役場から後ほど回答いただくとして、先に他の質問があればお願いします。

●参加者

営業経費とは、具体的にどのようなものですか。

●池島ゼミ学生

事業所により内容は異なりますが、広告代理店に依頼する広告費、温泉の維持管理費、施設修繕費、クリーニングやリネン代、電気・ガス代などです。

●池島准教授

原材料費はどうですか。

●池島ゼミ学生

食材費や飲料物の購入費などで、酒類は域内調達しやすいものとなっていたようです。

●池島准教授

本日参加され、調査に協力いただいた事業者の方から感想などはありますか。

●参加者

本日の報告は事業者向けに取りまとめた内容なのか、または参加者が比較的若いことから若者を前提として取りまとめたものなのか、更には箱根町を今後どのようにしたいかということが見えませんでした。考察部分もあったかと思いますが、データ収集や調査結果をそのまま発表するよりも、何をしたいか、誰を対象としているか絞ってまとめた方が分かりやすかったかと思います。

また、観光立町箱根で土曜の昼中に開催しても、忙しい事業者では参加できない可能性が高いので、開催日時に配慮すべきかと思います。

若者が調査したデータは正しいと思うので、調査結果の報告自体は勉強になり、それは感心しています。

●池島准教授

日程は調整のうえ決定したので学生に非はないのですが、貴重なご意見として参考にさせていただきます。

●町職員

スライド24で挙げた周辺地域との結びつきが強い中山間地域の４町より箱根町はLM3が

低いとのことでしたが、例えば他の観光地所在団体と比較した時、どのくらい差があるのでしょうか。

●池島ゼミ学生

LM3 で調査した事例があまりなく、例えば熱海市などの観光地で出せるとよいと思ったのですが出せておらず、現状では比較できません。

●参加者

私も今年度から箱根町に来たばかりで、町のことをあまり知らなかったので大変勉強になりました。ホテルも自然災害や感染症の流行でキャンセルが多く発生している状況で、私はフロントの担当であるため普段は業務上の取引や収支を意識しないのですが、すごく参考になりました。

説明を聞いている中ではスライドを読んでいるだけの場面もあったので、細かい説明を口頭で加えてもらえば理解しやすいと思う部分もありました。

●伊藤企画課長

調査結果の報告、ありがとうございました。今後もゼミ活動の一環として、箱根町はどのように改善していけばよいか、どこに力を入れていけばよいか引き続き考え、提案していただけると有意義な研究になると思いますので、是非お願いしたいと思います。

昨年度の大学連携取組事例発表会では、横浜国立大学の学生さんから、経済循環を改善する取組みの１つの手段として、起業したい若者を受け入れる環境の整備を提案していただきました。実際に、そのような方々が地域の中から少しずつ出ている状況にありまして、移住者や他の新しい起業者を巻き込み、新たな経済活動を行う流れが展開されていけばよいと感じています。

先程ご質問いただいた町の考え方については、池島ゼミナールにより箱根町の経済循環を研究していただくきっかけとなったのは、町の財政状況の悪化が背景にありました。その原因の１つとして、約 11,000 人の町民に対し年間約 2,000 万人の観光客を迎えている状況があり、観光客を受け入れるための経費が歳出に占める割合が大きいことが挙げられます。この課題に対し、町単体で考えた時にどうすれば改善できるか考えなければ町の将来が危ぶまれる、それがきっかけで地域経済循環を１つの視点として調査していただいているのが現状になります。

小田原市、熱海市、三島市など近隣市からの仕入れが多く、そのような取引がなければ

箱根町の宿泊業が成り立たないという実態は、学生さんの調査により改めて数値として明らかに把握することができました。町として、近隣市町の経済が衰退することは望んでいませんし、地域全体が活性化することは非常に重要との認識はありますので、町だけが潤えばよい、発展すればよいとは考えていません。しかしながら、財政状況の悪化という背景があり、現状では近隣市町との合併も考えてない中で、町の将来を見据え、持続可能な町政運営を考えていかなければならない状況で研究していただいているところになりますので、その辺りをご理解いただければと思います。

学生さんには、寒い中アンケート調査を行っていただきました。観光事業者さんへの調査も、可能であればもっと対象数を増やしたかったのですが、被災から間もない大変な中、時間を割いて協力いただいた観光事業者さんには感謝申しあげますし、学生さんの調査には理解いただきたいと思います。

●池島准教授

ありがとうございました。それでは、成果報告を終了します。

（休　憩）

プログラム(2) みんなのまちづくりゲーム体験会

●池島准教授

このゲームの趣旨は、「まち」をどうしていくかについて、このような場で意見やアイデアのみで議論していくのは難しいので、ゲームを使い箱根町を想定しながら、どのような選択をすれば、お金が動くのかを学ぶことにあります。

また、このゲームには、今、国連が進めている SDGs の 17 の目標も組み込んでいます。昨年夏に町職員を対象にゲームをした際に、SDGs とは何かという質問が結構あったので、資料３の「私たちがつくる持続可能な世界」を用意しましたが、まず、SDGs を理解してもらうために、外務省が作成した動画を見てください。

（動画視聴）

資料３の４ページに SDGs の 17 の目標が一覧になっていますが、各目標の内容については読めばわかると思いますので、ゲーム中は、この表を、適宜、見ながら進めてもらいたいです。また、資料２は、ゲームのルールを記載しています。ゲームのセットの中にもル

ールブックと書かれたものがありますので、どちらか見ながらゲームを進めてください。

（スライド３）

町の経済・財政の変化は、頭では何となく分かっていても、実感しにくい部分があるので、ゲームをしながら仕組みを学びつつ、自分たちがどのような「まち」にして行きたいかをシミュレートするのが、このゲームの目的です。

なぜ、このような視点を持つ必要があるのかを理解したうえでゲームを進めてもらいたいので、少し説明をしたいと思います。

（スライド５）

こちらは国の景気循環のグラフです。景気循環を繰り返す中で、現在は、比較的、良い経済状況と言えるそうです。疑問に感じる方もいると思いますが、まさに、その通りでして、国全体では経済状況が良いと言われても、地域や自分の身の回りの実感レベルでは異なっていることも多いです。

次の図は、各都道府県の県内総生産、いわゆる GDP の地域版になりますが、これを見ると首都圏が高くて、地方が低くなっています。さらに、人口の多い少ないも考慮し、1 人当たりの県民所得の分布を示したものが、右側の地図でして、赤い部分は所得が高く豊かな地域、黄色や水色は所得が低く貧しい地域といえます。(印刷資料には図はない)

このように日本全体で経済状況が良いと言われても、実際は、地域によって状況は異なるわけです。日本経済というマクロの状況と各地域の経済状況にはズレが生じています。そもそも日本経済は、各地域の経済が集まって日本経済を形成しているので、各地域の経済をどう良くしていくかという視点がないと、指標で見る日本の経済状況が良くても、それは一部の地域に限られていることになります。

（スライド６）

地域経済の衰退は、日本でも多くの場所で問題となっています。なぜ、地域経済が衰退するのかというと、元々、人間は狭い範囲で暮らしていると、そこで生活が完結するので、自分が働いて稼いだお金をその地域で使って、お金が地域で回り、右側の図のように、誰かの所得が次の人の所得に繋がっていき地域経済がクルクル回り、いわゆる経済循環が行われています。

しなしながら、企業は儲かる場所に立地するのが大原則であり、人が多く、事業がしやすい都市に移っていきます。そうなると、地元の小規模商店より都市にある店舗で買い物することが増え、本社が大都市にあると金が地域に落ちずに流出してしまいます。

そうなると地域の中で働く場所が減り、そこで働くことによって得ていた所得も低下していき、地域の中での経済循環が起きにくくなります。これは地域での経済活動の低迷に繋がっていると言うことができます。

さらに地域の経済活動が低迷すると、生活するにはお金が必要なので、働く場所がなけ

れば働き口があるところに移動し、地域から出て行ってしまいます。これが地域の人口減少に繋がっているので、地域住民を繋ぎとめるには、働く場所と適正な所得を得られる雇用機会、これらを確保しなければならないということです。

（スライド７）

この際に着目すべき１つのキーワードとして、今日のテーマでもある「経済循環」という考え方があります。地域経済を、いわゆる稼ぐ部分「①生産・販売」から、稼いだお金を労働者や企業に「②分配」し、そこで得たお金は、生活したり原材料を買ったりする「③支出」に使われ、支出で得たお金は、次の生産に繋がっています。

この循環のバランスが取れていると、経済は持続的と言えます。しかしながら、図のようにお金がどこかで外に抜けていくと、スタート時より循環して戻ってくるお金の方が少なくなってしまいます。

（スライド８）

この場合、戻ってきたお金が少ないので、次も少なくなります。それが続いていき悪循環になります。これを考えると、望ましいのは、最初に得たお金がうまく地域内で分配され、さらに外からの稼ぎも加えて、拡大しながら循環していくような状況です。

（スライド９）

ただし、そのような望ましい状況はなかなか起きていないことも事実です。むしろ良くあるのは悪循環の例で、今日は３つ紹介しますが、１つ目は良くある企業誘致に依存しているケースである。

企業城下町などが該当しますが、生産・販売での稼ぎはしっかりしているものの、大抵、分工場や支店が多いので、分配時に得られた所得の多くが企業所得として本社がある地域に流れてしまい、生産から分配の時点で大きなお金がこの地域から流出してしまうことになります。

さらに「支出」時も、当然、設備投資などは域外で行われるので、お金が抜けていくという例になります。地域でしっかり稼いでいますが、そのお金が地域で上手く回ってこないというのが、悪循環の１つの例でしょう。

（スライド 10）

悪循環の２つ目は、公共事業に頼ったような地域で、ここは、生産は先ほどに比べると少ししぼんだ形になっています。自前では稼げずに公共事業などで国からお金が入ってくるので、分配が少し大きくなっていますが、それがうまく地域の中で回らずに萎んでいってしまう様子になります。

（スライド 11）

３つ目は、箱根町などのケースと書いてありますけれど、観光収入がうまく地域経済の活性化に結びつかない例です。要するに、支出部分で外からくる観光客によりお金が入ってきますが、そのまま外に出てしまうケースです。例えば、お土産は町外で製造され、それを販売していますが、この場合、観光客が払ったお金は、町に落ちるというより製造元の所に出ていってしまうようなケースです。

今、３つの悪循環の例を紹介しましたが、このような形で経済の流れを意識するとお金が地域の中に留まるのか、出ていくのかというのが地域の活性化の道しるべとして見えてくると思います。

（スライド 12）

地域経済循環のポイントは、お金は財政移転や企業誘致、観光収入等を含めて色々な所から入ってきますが、これまで、それがどこに出ていくのか意識されていませんでした。しかし、地域経済を持続させていくためには、その地域に住む人が必要であり、住むためには働く場所が必要です。その点では、できるだけ雇用と所得を地域の中で維持する対策が、今、求められています。

学生の発表でも、地域内にお金をとどめることが重要とありましたが、そう言われてもお金の流れはデータでも拾えず、目に見えません。このため対策が取り難いということが、今までありました。

しかしながら、この部分を把握しないことには、現状を打破できないと私は感じています。何とか経済の動きやお金の流れを見える化できないか。そこで、これから皆さんに行ってもらうゲームを通じて、少しでもお金の流れや経済の仕組みを体感してもらいたいと思います。

【ゲームの説明　目標の設定】

これからゲームの本題に入りますが、今日のゲームを一言でいうと、ゲーム終了時点で、一番、自分たちの中で理想とするまちに近づいたチームが勝ちとなります。

この後、理想のまちについて話し合ってもらいますが、チーム毎に理想像は異なると思いますし、この比較は難しいので、１つの指標として点数を用いており、最後に、「点数はこうだったけれども、このような町になった」という形で発表してもらいます。

点数が高いイコール良いまちと言えるかはわかりませんし、点数は低くても、皆さんが納得した理想のまちとなっている場合もありえますが、比較しやすいように点数も競って

もらいます。

その準備としてどのようなまちを目指すのかをこのあと各チームで相談してもらいます。

まず、SDGs の 17 の目標のうち３つ選択してもらい、それを踏まえてどのような「まち」を目指すか決めます。ゲームを開始する前に、各チームがどのような「まち」を目指すか発表してもらいますので、そのつもりで相談してください。

架空の「まち」を想定しても良いですし、箱根町をこんな「まち」にしたいという形でも結構ですので、各チームで意見を出して考えてもらえればと思います。

この際、ゲームのセットにまちづくりシートという目標を記入する用紙がありますので、話し合った結果をシートに書いてください。ゲームをプレイすることよりも、どのような「まち」にしたいかを参加者同士で議論することの方が、重要だと思います。

今後、一般住民の方を交えてゲームをする場合は、参加者が日常生活でどんな問題を抱えていて、本当は、こんな「まち」にしたいけどというような話を引き出せるのが理想であると思っています。今日は、時間の関係で圧縮していますが、そういった形で情報交換や情報共有の場として、活用してもらいたいと思います。

（まちづくりに向けた大目標と大目標の達成に向けて掲げる SDGs の目標を３つ選択）

【まちづくりの目標の設定結果の発表（５チーム）】

●池島准教授

それでは各チームの『まちづくりに向けた「大目標」』と『大目標の達成に向けて掲げる「SDGs の各目標」※（３つ）』、それらを設定した道筋の説明をお願いします。

※SDGs の目標は、資料３の４ページ参照

●D チーム

大目標は『誰でも安心して住める明るいきれいな町』としました。目標のイメージとして、犯罪が少ない、子育てしやすい、環境にやさしくて明るいまち等の意見がありました。

それに伴う SDGs は、④・⑮・⑯を選択しました。望ましいと考えたまちづくりの目標になりますので、箱根町を想定して設定したわけではありません。

●池島准教授

箱根町の目標達成度は、どの程度と考えていますか。

●D チーム

教育面に力を入れて取り組んでいること、豊かな自然が守られていること、犯罪が多くないことから、ある程度は達成できていると考えます。

●E チーム

大目標を『安全で、訪れる人にも住む人にも魅力ある町に!!』とし、SDGs 目標を⑥・⑧・⑪としました。『安全』は「⑪住み続けられるまちづくりを」で主に災害対策を行うことで確保し、『訪れる人』は「⑥安全な水とトイレを世界中に」で衛生面を良好に保つことで観光客を気持ちよく迎え、『住む人』は「⑧働きがいも経済成長も」で住む人・働く人にとって良い環境を整備する目標としました。これは、箱根町を想定して設定した目標です。

●池島准教授

箱根町の達成度は、どのくらいでしょうか。

●E チーム

災害対策は昨年の自然災害への迅速な対応から進んでいると考えられ、安全な水とトイレも良好であると考えられます。働きがいのある環境は、これから更に充実していければと思います。

●池島准教授

働きがいの部分に課題を見出し、ゲームをプレーされることを確認しました。

●C チーム

大目標を『Super Platinum Town!!（金持ちの高齢者層を中心に経済を）』とし、SDGs 目標を③・⑧・⑪としました。

私は仙石原に住んでおり、役場だけでできることに限界を感じているので、プラチナ世代と呼ばれる元気でアクティブな高齢者を退職後に箱根町に呼び、経済を活性化させていけばよいと考えます。

●池島准教授

箱根町を想定し、足らないと考えることを目標設定したということですね。

●B チーム

大目標を『全ての世代の人が健康で安全・安心に住める環境』とし、SDGs 目標を③・⑨・⑪としました。その理由は、箱根町の高齢化の現状から、あらゆる年齢層を対象に住民福祉を充実させること、また、昨年の自然災害を踏まえ、安全で安心して住める環境が重要であるため、持続可能な居住環境の整備が必要であると考えました。

●池島准教授

箱根町を想定した設定ということで、学生目線から、目標を達成したまちであれば住民になってもよいという結果が理想かと思います。

●A チーム

大目標を『買い物ができる場所、病院等が近くにあって、災害にも強く誰にとっても便利で住みやすいまち』とし、SDGs 目標を③・⑧・⑬としました。

『買い物ができる場所』があることで雇用確保と働きがい、経済成長に繋げ、『病院等』があることで全ての人に対する健康と福祉と考えました。⑬は他チームが選択していない抽象度の高い目標ですが、昨年の自然災害を踏まえると、自然現象や気候変動に強いまちづくりが必要であり、具体的にどう取り組むか考えようと思いました。

●池島准教授

具体的な目標や指針をもってプレーしていただけると思います。

本日は５チームに分かれてプレーしますが､SDGs 目標の選択はチームごとで重なる部分、異なる部分があり、その辺りが実際のプレーにどう影響するか楽しみにしています。目標設定を終えたので、実際にプレーしながら説明していきたいと思います。

（ゲームの説明・ゲーム実施・集計作業）

【結果発表（５チーム）】

●池島准教授

それでは、各チームの点数と達成度、感想、問題点等があれば聞いていこうと思います。

達成度は、始めに選択した目標に対してどうであったか、コメントや自己評価点で構いませんので、発表をお願いします。

●A チーム

合計点は、100 点になりました。

大目標に対しては、SDGs 目標で⑬を選択し取組みを進めていたこともあり、地震やゲリラ豪雨もあったのですが、災害に強いという面では高い達成度となりました。買い物ができる場所は判断しづらい部分もありますが、町の中で会社を経営することもありましたので、ある程度達成できたものと思います。一方で、医療・福祉、子育て、教育までは行き届かなかった印象があります。

問題点は、町内の経済循環は良好でしたが、域際収支が悪かったことです。

●B チーム

合計点は、180 点になりました。

災害が２度あったにも係わらず人口を維持でき、最終的な定住人口が９であったことが評価できると思います。健康面では、CO2 と放射線廃棄物がゼロであったため、健康的な

町と言えるのではないかと思います。また、道路網の整備や福祉施設の運営ができたため、住民福祉の向上に繋がりました。

域外支出を増やさないことに留意しプレーした結果、域際収支をプラスで終えられたのが評価できる点であり、総評としては概ね良好な結果であったと思います。

●D チーム

合計点は、220 点となりました。

犯罪が少ないこと、子育てしやすいこと、環境に優れることを重点的にプレーした結果、富の再分配等による犯罪抑止に加え、幅広くアクションや政策を実施したことで地域力が 10 で終わることができました。

一方、途中で役場の保有する金額が 100S まで落ち込むことほど財政状況が悪化した時もありましたので、その辺りも踏まえ、自己評価で 10 点中８点くらいかと思います。

●池島准教授

箱根町の状況に似た結果となったようですね。

●C チーム

合計点は、260 点となりました。

大目標は『Super Platinum Town!!（金持ちの高齢者層を中心に経済を）』をコンセプトとしていたのですが、長く住み続けられることや経済成長を重点的に進めていき、早い段階で人口と地域性を上げることとしました。それを利用し、国から多額の交付金を得ることで役場が支出し、住民に還元するというスタイルにより、域内所得を 30,000S から 37,700S まで上げることができたので、経済成長は達成できたと思います。

環境を省みず経済成長に力を入れたことは反省点ですが、コンセプトどおりに進んだと思いますし、１度も増税せずに終えられたことは評価できると思います。

●池島准教授

在りし日の箱根町という感じですね。

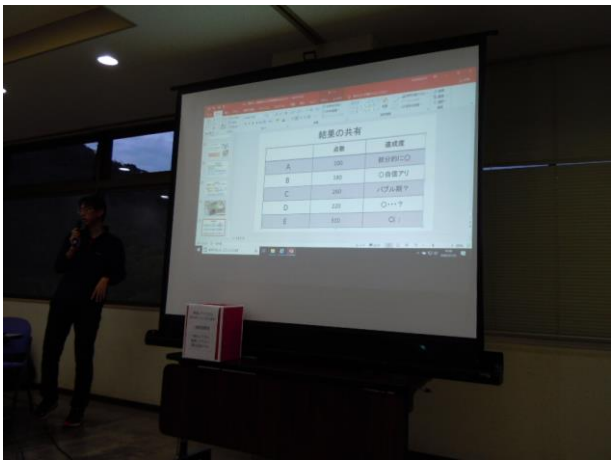
●E チーム

合計点は、310 点となりました。

始めに発電所や店を町内に作り、経済が循環するよう考えながらお金が流出しないよう進めていきました。また、国から交付金を得られるよう人口調整をするなど、ルールの範囲内でバランスをとったことが高得点に繋がったと思います。最終的には SDGs 目標も達成し、理想のまちづくりになったと思います。

【ゲームの感想】

●池島准教授



ありがとうございました。５チームの点数と達成度が出揃いました。

本ゲームは高い点数を求めるだけでなく、点数の内容がまちづくりにどう反映されているかを振り返ることが重要で、例えば、災害対策に特化したがゆえに高得点に結びつかなかったなどということもあります。点数は、ある意味で現実のお金をイメージしてもらえればよく、豊かさとは何かを考えるツールとしてこのゲームを開発しました。

それでは、残り時間でプレーした感想をお願いします。

●E チーム

チームが理想としたまちづくりを行うにあたり、お金の使い道を考えさせられました。最終的に、ゲームだからこそ理想に近付けたかと思いますが、現実社会で同じように行うことがいかに難しいかが分かったように感じます。

●D チーム

政策を実施するには資金が必要で、お金を集めるには住民もある程度裕福である必要があり、特に貧富の差が大きいと経済循環が上手くいかないため、富の再分配を何回か行いました。また、徴収側にも様々な問題があり、両者の立場を考えるとバランスを取ることが難しく、いろいろなことを考えさせられる非常におもしろいゲームでした。

●C チーム

私は今回で２回目のプレーとなりましたが、前回よりまちづくりのコンセプトを明確にもち、理想に近付くため破綻してもよいぐらいの考えで進めていました。しかし、プレーを進めるうちに、役場にお金が集中して住民にお金が少なくなってもいけない、政策を実施するか否かもメリット・デメリットがある中で、何も実施しないと減っていくだけ。その辺りのバランスを考えさせられながら、結果的には理想としたまちづくりができたと思います。

●池島准教授

ここで、感想の趣旨を変えたいと思います。初対面の学生と一緒にプレーした経験を踏まえ、今後、例えば住民や地域の事業者とともに町のことを検討する材料としてこのゲームが使えるかという観点ではどうでしょうか。

●B チーム

私も本日で２回目のプレーとなりましたが、前回の教訓を上手く生かせず、学生さんに助けていただく結果となりました。このゲームをプレーすることで、役場の立場として判断が難しいことや苦労などを住民の方に理解してもらう良いきっかけになると思いますし、町職員の立場としても、執行者の気持ちを知る良い機会になりました。

●池島准教授

こちらの意向を受け入れてもらいにくい住民や事業者とともに町を考える場面を想定した時に、このゲームを一緒にプレーすることは効果的であるかという観点で、今後調整する機会が多いであろう若手職員からの感想はどうでしょうか。

●A チーム

普段の業務では感じにくい町政の苦労やバランスを取ることの難しさが分かり、そのことを住民に理解してもらう良い材料であると思います。また、初対面の学生さんや部署の異なる町職員と一緒にプレーしましたが、ゲームなので話しやすいこともあり、理想のまちづくりという目標を共有するための良いツールになると思います。

【閉　会】

●池島准教授

ありがとうございました。

私は、まちづくりゲームを使いながら、現実のまちの運営やまちづくりに活かしてもらえたらという想いで取組んでいます。皆さんも今日の体験を活かしてもらって、日々の業務にうまく応用していただければと思っております。

●事務局

今日は、１時から５時までという長時間にわたり、参加いただきありがとうございました。本来は、町民の方に多く参加して頂きたかったのですが、ゲームの実施に時間を要することもあり、土曜日の午後に開催したので参加者が少ない点は、次の機会に活かしたいと思います。

このゲームは、池島先生が徐々に開発を進めていて、当初バージョンから、感想や意見を伝えて改良を重ねて進化しています。今回、体験した意見や感想も反映できる機会があると思いますし、箱根町ご当地バージョンのようなものができるとよいと考えており、来年度から総合計画後期基本計画の策定作業が始まりますので、そのような機会の中で、今日参加して頂いた職員のみでなく、大学連携を進めている中では学生の皆さん、さらに町民を加えた会が開催できればと考えておりますので、今後もよろしくお願いします。